



# リード守り切れず、 2戦連続ドロー

## 駒澤大学2-2桐蔭横浜大学

白星を逃し、悔しさを滲ませる  
イレブン (撮影: 佐藤 亮)

4月21日 11:30 フクダ電子アリーナ

駒大 2 (0-1) 桐蔭大  
(4位) (2-1) (1位)

得点者 (アシスト)

[駒]50分平尾(確井)  
[駒]69分湯澤

[桐]39分野上  
[桐]89分青木

**KOMAZAWA**

GK①大石健太(3)  
DF②若山瞭太(3)  
DF④三澤祥馬(4)  
DF⑬平尾優頼(2)  
DF③田中雄一(3)  
MF⑦中村 駿(1)  
MF⑧確井鉄平(3)  
MF⑬磯部雄基(2)  
(59分)⑩小牧成亘(2)  
MF⑪湯澤洋介(4)  
FW⑭板倉直紀(2)  
(74分)⑤宮城雅史(4)  
FW⑯菊池将太(1)  
(45分)⑫小牟田洋佑(2)

**S U B**

GK⑳積田景介(1)  
DF㉑嶋谷昇大(1)  
DF㉒鹿野剛己(1)  
FW㉓山本大貴(3)

**MANAGER**

秋田浩一

**TOINYOKOHAMA**

GK①島崎恭平(3)  
DF③野上結貴(3)  
DF⑥小林 誠(4)  
DF⑱古澤慶太(2)  
DF㉑川本俊輔(2)  
MF⑤平山玲央(3)  
(81分)㉒長島孝太(2)  
DF⑦橋村祐太(1)  
(61分)⑨大泉和也(3)  
MF⑩引間俊也(4)  
MF㉓山根視来(1)  
(90分)⑬能篠泰一(3)  
MF⑱福島翔太郎(1)  
FW⑪青木翔太(4)

**S U B**

GK㉔吉田裕司(3)  
DF②井上玄太(3)  
MF④香西克哉(3)  
MF㉕上野翔也(2)

**MANAGER**

八城 修

[シュート]10:13 [GK]9:6 [CK] 4:5 [直接FK]16:17  
[間接FK]2:5 [主審]加藤 正和 [観衆]約276人

警告(C)/退場(S)

[桐]35分福島(C)  
[桐]74分引間(C)  
[桐]90分長島(C)  
[桐]90+1分青木(C)

※データの左側が駒大

### セットプレーから失点、 掴み損えた勝ち点3...

「本当にあと少し。もう少しのところで全体的に気が抜けるというか、詰めが甘い」一。平尾のこの言葉が今節の駒大の全てを物語っていた。

勝てば一気に首位浮上という、今季最初の関門とも言える桐蔭横浜大との一戦。PKにより先制点を許すものの、後半に駒大が決死の猛攻で勝ち越しに成功。勝利が見えてきたと思われたが、終了間際のまさかの同点弾で2戦連続ドローという結果に終わった。

今節は、ここまでの2戦で先発フル出場だった嶋谷を外し、平尾をCBとして起用。同じくCBの三澤主将は、「(平尾とは)トルコ遠征のときから一緒にやっていたので、問題はなかった」と、相性の良さを窺わせた。また、全日本高校選抜のヨーロッパ遠征帰りの菊池がリーグ初出場。その長身から生み出される得点に期待が寄せられた。

「後手になって攻められる時間が続いた」と三澤が語ったように、前半は桐蔭大が主導権を握った。立て続けにゴールを狙われ、駒大は防戦一方。それでもラインを下

げて失点を防いだ。39分に自陣のゴール前でファールの判定。PKを献上すると、これを落ち着いて決められてしまう。

1点を追って迎えた後半には、ルーキー菊池に替えて小牟田をピッチへ。これが功を奏し、前へ前へという攻撃の形を見出すと、徐々にリズムを掴んでいく。

すると50分、確井のFKに、「ファーに入ろうと狙っていた」と平尾が合わせて試合を振り出しに戻す。69分にも、左サイドで板倉からパスを受けた湯澤がドリブル突破、最後はゴールの右隅に流し込んで勝ち越しに成功。自身今季初の得点に、湯澤は「めちゃくちゃうれしかった」と振り返った。

このまま試合終了かと思われた89分、CKを押し込まれ再び同点へ。そこで試合終了の笛が鳴り、まさかの2戦連続ドローとなった。

なかなか勝ち切れないチームに、秋田浩一監督は「まだ負けていないので、上を向けばチャンスは来ると思う。今は我慢」と話す。勝ち点3こそ逃したが、後半は完全に主導権を握っていた。立ち上がりからそのリズムを掴むことができれば、おのずと待ち望んでいる白星は近づくはずだ。次節こそ完勝し、駒大の強さを見せて欲しい。

(河田 奈津子)